

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子	追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習ⅡB	OTMa-120702-2	20	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：2クラス計40名で計3テーマを設定し1つの調査票を作成した。以下にBクラス「部屋の状態は何と関連しているか」グループの概要を述べる

2. 調査の内容／概要：部屋が片付いているかどうかは何によって規定されているのかを明らかにするため、住まい方、生活行動、生活時間、性格の影響を調査分析した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：母集団：追手門学院大学の社会学部生1～3年生 計559名、サンプリング：全数調査（1～3年ゼミ28クラスを通じた配布・回収）、標本数（母集団から実習参加者を差し引いた人数）：520名

4. 主な調査項目：性別、住まい方、部屋の状態、生活時間、社会活動数、インテリアへのこだわり・さみしがり屋であるかといった意識、性格特性 など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：1～3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。したがって、自記式、集合調査である（ただし、一部回収箱を利用した留置法を併用）。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2012年6月下旬～7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計40名（うちBクラス20名）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：総配布数327、有効回収数：319、配布数に対する有効回収率：97.6%（前回比+4.7%）

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：SPSSを用いた統計解析（クロス表分析とカイ2乗検定、相関分析、平均値の差の検定が中心）

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：①自己評価と実際の部屋の散らかり度は一致しない、②多忙さ（生活時間、社会活動数による測定）と部屋の散らかり度は関連が見られない、③他者依存、寂しがりへの傾向が強いほど、室内にモノが多くなり片付きにくい傾向がみられ、人間関係の持ち方（ルーズさ）との関連が見られるなど。

10. 報告書刊行の予定と概要：2013年3月に『2012年度 社会調査実習報告書』刊行。Bクラスからは、部屋に関する論文11本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩渕 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩渕 亜希子	追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習ⅡB	OTMa-120702-2	20	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計40名で計3テーマを設定し1つの調査票を作成した。以下にBクラス「都会と田舎は何によって決まるか」グループの概要を述べる

2. 調査の内容/概要：ある地域・町を都会と感ずるか田舎と感ずるかが何によって決まるかを、現住地および大学所在自治体を取り上げて調査、分析した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生 計559名、サンプリング：全数調査 (1~3年ゼミ28クラスを通じた配布・回収)、標本数 (母集団から実習参加者を差し引いた人数)：520名

4. 主な調査項目：性別、現住地、現住地および大学所在地の都会度評価、現住地の環境 (自然環境、交通・施設、人間関係、地域文化)。現住地市町村をコード化し、国勢調査データより人口ランク変数を作成。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。したがって、自記式、集合調査である (ただし、一部回収箱を利用した留置法を併用)。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2012年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計40名 (うちBクラス20名)

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数327、有効回収数：319、配布数に対する有効回収率：97.6% (前回比+4.7%)

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、相関分析、重回帰分析)

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①現住地の田舎度評価によって、大学所在地に対する田舎度評価は異なる、②現住地に対する田舎度判断には施設 (建物) の有無や数が大きな影響を与えているが、大学所在地に対する判断では自然環境がより影響を及ぼしている。なじみの無い土地ほど目に付きやすい自然環境の影響が大きくなる可能性がある。

10. 報告書刊行の予定と概要：2013年3月に『2012年度 社会調査実習報告書』刊行。Bクラスからは、都会・田舎度に関する論文1本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて (3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。